

北原きたはら

1番〜95番まで、畑

●遺跡 北原遺跡 奈良・平安時代。

西窪にしくぼ

1番〜59番まで、山林・畑・草地

●遺跡 西窪遺跡 縄文時代。

京安林きょうあんりん

1番〜24番まで、山林

●遺跡 京安林遺跡 縄文時代。

昭和五十一年発掘調査

大久保おおくほ

大久保地区は良質の粘土が有り、昔から瓦焼き場があった。

開拓入植者 二戸・他二人・一部原野

●遺跡 大久保遺跡 縄文・奈良・平安時代。

大久保須恵器窯跡 昭和五十八年一部試掘・昭和五十九

年(一九八四)発掘調査

◎延享元年(一七四四)御検地配布帳・明治六年(一八七三)

耕地田畑配布帳・明治十六年八月十三日(一八八三)地積元仕

出帳による調査地名。

・ざる田・八反畑(1番〜47番まで、畑)・西原前(1番

〜70番まで、畑田)・古館・八木沢作(1番〜34番まで、

田)上菖蒲江(1番〜6番まで、田)下菖蒲江(1番〜12番

まで、田)・中田沢川(1番〜37番まで、田)・中前田(1番〜122番まで、畑)・下中谷地(1番〜66番まで、田畑)、
沖田(1番〜36番まで、田)、下田沢川(1番〜24番まで、
田・畑)・五百苅(1番〜35番まで、田・畑)・上シド(1番〜26番まで、田)・上上野(1番〜85番まで、畑)

入田沢いりたさわ(沼田乙)

地名の由来不明

「出戸」の山表の意に対し、「入」は山奥の意を表したので
はないか。
(奥州会津新鶴村誌)

入田沢集落の地名は、旧地名「寺ノ後」が現在は「寺西」と
改称されている他、地名改称はなされていない様である。

◆地名左のとおり。

・宮ノ前みやのまえ・山ノ神やまのかみ・向橋本むかいはしもと・堰場せきば・田作でんざく(田作の山寛文風土
記に「追分山」と云う)・大澤おおさわ・後前田あとまへだ・北原きたはら・橋本はしもと・月ノ
澤さわ・柁澤てらあと・寺後てらあと(現・寺西)・切留場きつとめば・上野うわの・館ヶ曹根たてがそね(寛文
風土記には赤羽山とある)・取上とりあげ・浪漆なみうるし・五百苅ごひゃくかり・清水尻しみずじり・梨
平だいら・宮窪みやくぼ・三百苅さんひゃくかり・歌ノ澤うたのさわ・蟹ノ澤かにのさわ・小座曹根おざそね・前田まへだ

贗澤がんざわ

入田沢集落蟹沢地区の一部に、贗澤と呼ばれた地名の伝承が
ある。

この地は入田沢集落前「歌ノ澤堤」の手前の西側の沢で、百
米位入った所に一寸隠れることの出来るような場所がある。

戊辰戦争の時、会津藩と西軍が入り替わり来て食料・人馬の
徴発が行われた。集落の人達はこの贗澤にある程度食料・馬な